

# 霞

— 2022年度 博物館だより —

土浦市立博物館  
令和5年2月2日発行(番外第8号)

土浦市立博物館は、大規模改修工事のため、令和4年7月5日(火)から令和6年1月上旬(予定)まで休館いたします。博物館だより「霞(かすみ) 番外」では、毎月、工事の進捗状況や館外で開催する展覧会、講座の情報をお伝えします。休館中の「おうちミュージアム」(解説動画)では、土浦市内の史跡や文化財などの見どころを紹介します。

## 博物館は休館中！(8)「はたおり伝承活動を継続中です」

博物館では、昔の農家で行われていた木綿織りの技術<sup>もめん</sup>を伝承するため、はたおり教室やはたごしらえ講座を開講してきました。講座の卒業生は、はたおり伝承サークル「はたおりの会」「綿の実」として活動し、技術の継承と普及に務めています。休館中は国登録有形文化財「一色家住宅」の敷地内にある建物で活動をしています。



一色家住宅主屋(右)と敷地内の建物(左手奥)



はたおり技術の継承

## ◆博物館からのお知らせ◆

### ●土浦市民ギャラリーで移動展を開催します

会場：土浦市民ギャラリー(土浦市大和町1-1 アルカス土浦1階)

会期：令和5年2月3日(金)～3月5日(日)

10時～18時 月曜休館 ※見学は無料です。

#### 展示ギャラリー1：デザインとしてみる「むかしの道具」

小学校校外学習の参考展示です。なつかしい道具からちょっと不思議な道具まで、むかしの道具をデザインという視点で紹介します。

#### 展示ギャラリー2：時代を紡ぐ—はたおり伝承活動30年—

土浦市立博物館の「はたおり教室」は平成2(1990)年に開講し、平成25年から「はたごしらえ講座」として継続され、一連の活動は30年を超えました。本展覧会では卒業生の作品をとおして、土浦地方のはたおりについて紹介します。

※関連イベントとして、「はたおり体験」「土浦地方のはたごしらえ実演会」を開催します。

日時や申込方法等の詳細は、博物館ホームページ(右QRコード)、または移動展チラシでご確認ください。



2023年2月 おうちミュージアム解説

# てんのうづか 天王塚

— 霞ヶ浦に流れ着いた神の鎮座地 —

江戸時代の土浦城下では、毎年6月に祇園祭が行われていました。6月12日に真鍋台にある天王社（現在の土浦八坂神社）から城下町へ神輿が下りてきて、本町（中央2丁目）に設けられた御仮屋（仮宮）に入りました。翌13日には土浦城内に神輿が入って初穂が奉納され、その後は城下町全体を巡行して、天王社へ戻りました。

天王社に祭られているのは、牛頭天王とよばれる疫病をつかさどる神さまです。牛頭天王を土浦城下に迎えて祭り上げることにより、その加護を得て、疫病を祓おうとしたのが、この祭礼の本義であったと考えます。そのため、疫病が流行った際には、臨時に天王社から神輿を迎えて、城下を巡行させることもありました。

さて、この土浦城下を守る牛頭天王には、「桜川を流されてきて、霞ヶ浦で拾い上げられた」とする「漂着神伝承」があります。ご神体を拾い上げたのは、小林嘉左衛門と色川弥兵衛というふたりの人物とされます。彼らは流れてきた天王のご神体を引き上げ、霞ヶ浦の湖畔に祭りました。ご神体を祭った天王社はその後、真鍋台の現地に遷されましたが、最初に祭られた鎮座地は「天王塚」とよばれました。

江戸時代後期に水戸藩・土浦藩に仕えた農政学者の長島尉信は、著作「遠中未来記」のなかで、天王塚の由来を次のように述べています。

むかし神輿湖上より此処へ流れより引あけたる処のしるし二松を植置後大木と成りしか、後に枯れたるよし、土人いふ、扱神輿を引あけたる者の子孫かやしき八本町ト中町ト境の東側にて、年々六月の祭礼に天王御旅所と成る古例也

長島が聞いたところでは、「昔、天王の神輿が湖上からここへ流れ寄り、引き上げた所の標として松を植えたところ大木となったが、後にこの松は枯れてしまった」とのことでした。この松が枯れて塚だけが残った場所が、天王塚ということになります。天王塚は今も川口2丁目に遺ります。霞ヶ浦湖畔の宅地化によって住宅に囲まれています。天王塚」と刻まれた石碑とその脇に植えられた細い松が、往時の姿を想起させます。

長島は「神輿を引き上げた者の子孫の屋敷は、本町と中町との境界の東側にあつて、毎年6月の祭礼ではここが天王の御旅所になることが古例になっている」とも述べています。天王の御旅所とは、冒頭で述べた本町の御仮屋のことを指します。御仮屋の前には、天王を拾い上げた小林嘉左衛門の子孫の家がありました。祇園祭のたびに、ご神体を拾い上げた家の前に神輿が渡ることにより、天王にまつわる伝承は城下の人々に共有されたはずです。

漂着神伝承は、毎年繰り返される祭礼と天王塚の存在によって、土浦の人々に語り継がれてきたのではないかと、そのように考えています。（萩谷良太）



天王塚の碑と松



左のQRコードから解説動画のウェブページへアクセスできます。

霞（かすみ） 2022年度 博物館だより（番外第8号）

編集・発行 土浦市立博物館 茨城県土浦市中央1-15-18  
TEL 029-824-2928 FAX 029-824-9423  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir000378.html>

博物館だより「霞」番外第9号の刊行は、令和5年3月2日（木）を予定しています。

※「霞」バックナンバーは、当館ホームページからもご覧になれます。（カラー版）